

## 2世代目のFD活動のステップに向けて

基礎教育センター長・FD委員会委員長

上野 淳

首都大学東京も開学4年目を終えようとしており、初めての卒業生を送り出す時期を迎えることになった。

4年前、開学直後から全学FD委員会が発足し活動を開始したが、思い起こせば... 五里霧中、そして、無我夢中の4年間であった。

この「クロスロード」年2回発刊も、この度8号目を送り出すことになり、年2回を定例としてきた全学FDセミナーもこの2月のセミナーで8回目を開催することができた。これらの歩みを巻末にまとめて掲載したが、隔世の感があるというか、若干の感慨を持つ次第である。様々な取り組みを行ってきた系譜をご確認いただければ幸いである。



この間、大学を巡る情勢にもめまぐるしいものがあった。大学におけるFDの義務化、単位の実質化へむけての取り組みの強化、そして、中央教育審議会による「学士課程教育の構築に向けて」の公表である。FD委員会でも、教務委員会や基礎教育部会と協働して、これらに対応すべく様々な活動を行ってきたが、それらの足跡も「クロスロード」の8冊をお目通し頂ければ、ご理解いただけるものと想う。

さて、本学におけるFD活動の現状をみると、その第一ステップは適切にクリアできていると考える。基礎教育の全学共通科目におけるSE・TEはほぼ悉皆的に実施されており、各学部・研究科等の専門科目においても実現している。徐々に参加者が増えている全学FDセミナーの他、各学部・学系においても、独自のセミナーや研修会が定例的に活発に行われるようになってきている。基礎教育の各科目群における成績評価ガイドラインの制定も実現し、徐々にその効果も認められるようになってきた。

さて、以上を受けて、本学のFDも2世代目を目指すべき段階に到達したと実感する。その新しい目標はこれまでの活動実績を維持しながらの「組織的なFD活動」へのステップアップであると考え。又、2年後の認証評価を控えて、自己点検・評価委員会との連携も重要な課題になってこよう。

奇しくも、「基礎教育センター」は新年度から「大学教育センター」へと発展的に改組される予定である。次世代FDにむけて、更なる前進をお願いする次第である。